

2014年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	電気通信工学科						
科目名	初等回路理論						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース) / 必修科目(電気エネルギーコース) / 必修科目(情報システムコース)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・電流計や電圧計を目的に即して正しく接続できる。 ・オームの法則を式で表せる。コンデンサの容量の定義が説明できる。 ・回路の内線に流れる電流を、独立な閉路電流の組み合わせで書き表せる。 ・RC閉回路に流れる電流のふるまいが定性的に説明できる。 ・交流電圧のもとでコンデンサやコイルに流れる電流や電圧の変化を書き示すことができる。 ・電磁気学で使用される単位を、それぞれm, kg, s, Aの組み合わせで書き直せる。 						
日程と内容	4/10 導入講義 4/17 電流・電圧・直流と交流 4/24 電位・電力・ジュール熱 5/ 1 オームの法則・抵抗 5/ 8 電気工学で使う単位(1), 演習 5/15 小試験 5/22 回路図とグラフ 5/29 回路方程式の立て方 6 /5 電気工学で使う単位(2) 6/12 小試験 6/19 コンデンサとその容量 6/26 コンデンサの交流に対する応答・演示 7/ 3 コイルの交流に関する応答 7/10 DVDによるデモンストレーション(電気現象) 7/17 総合復習 7/24 定期試験						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験	20%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	20%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	授業の目的は講義を通して達成できた。また、個々の学生の理解度は課題と試験によって検証できた。						
反省点	授業内容としては、電気回路の理論を見渡し、他分野との関連を述べるものである。その水準は高くならないように抑えられている。しかし、コンデンサやコイルの役割は現時点では学生に理解しにくいようである。これに関しては講義の進め方により工夫が求められるであろう。現在、DVDビデオの助けをかりて説明をしているが、学生の前で関連の演示をすることも必要である。						
来年度の計画	基本的に今年度を同じ計画のもとで実施する。						
授業評価アンケートに対するコメント	1年の前期ということもあり、全般的に学生は熱心に聴講したようで、それがアンケートの結果に反映している。ただ、個々の学習課題については学生ごとに興味の度合いが異なるようで、これは2回の課題の答案から容易に判定できた。多くの学生には、ただ覚えるだけでなく、みずから考えて理解することを今後の課題としてほしい。						
履修登録者数	71名	定期試験 受験者数	64名	合格者数	63名	合格率	98%